

自民党区議会議員 24年5月号No.57 毎月1回発行

とりがい秀夫の地域ニュース

南千住8-3-3-201 電話&FAX (3807) 4811

携帯メール torigaihideo@ezweb.ne.jp



南千住東口BIVI「大阪王将」開店

6月下旬目途 モスバーガー跡

本年2月、サイゼリアなどが入居しているBIVIで運営していた「モスバーガー」が閉店しました。地域住民からはその後に関心を集まっていたが、この度「大阪王将」（餃子の王将と違う店）が開店する予定との事です。現在、店内の工事が行われており。開店は6月末から7月初旬で準備をしています。駅西口も多くの居酒屋チェーン店が競争を



していますが、東側においてもラテラス内の店舗も含め飲食店の競争が激しくなってきました。駅前の駐輪場の隣では中華料理「胡弓」が営業していますが、影響はどのように出るのでしょうか。利用者側の立場で見ればどの飲食店であろうと、競争がどんなに激しくても「おいしい料理を出してくれれば良い」というのが本音ではないでしょうか。

23区、アジアに「ごみ処理方法等」支援

西川区長会会長指導力発揮 日経報道

将来的には清掃工場輸出も視野に

5月23日の日本経済新聞は東京23区の清掃組合は、西川区長が管理者に就任してから、発展するアジアの国々が抱えている環境・清掃・リサイクル・大気汚染対策などの問題解決のノウハウを支援するなど、国際協力的な事業を展開していると紹介しています。昨年10月にはシンガポール・マレーシアを訪問し、研修生の受け入れや分別収集などのなど意見交換を行いました。

5月18日清掃工場輸出

よしず 汐入公園噴水前パーゴラに葎箆張り

崎山知尚 前都議会議員 都に要請



6月4日工事 読者の声届く

4月号で掲載した噴水広場の噴水の周りには連日、家族・グループ連れで敷物をひいてお弁当を食べている方々の姿も目につきます。5月に入ってから崎山知尚・前都議会議員と公園前で街頭報告をしていたところ、公園内で遊んでいた方が「現在、4基のパーゴラ（日陰棚）の内2基は藤の木があるが2基は何もない状態なので日陰になるものを作ってほしい」との要望を戴きました。さっそく都の公園課に働き掛けをしたところ、本来は藤棚として木陰対策を行いますが、今年は緊急措置として葎箆（よしず）で対応することになりました。汐入公園事務所で確認したところ、今回は2基のパーゴラに葎箆を張る工事を6月4日に行うとの連絡をいただきました。



「記憶に残る街汐入」写真展盛会裏に終了 300人を超える来館者

開発前の汐入をとり続けているアマチュアカメラマンの高橋勝三さんの写真展を町会事務所（防災センター）で5月16日から22日まで開催しました。期間中は従来からの住民はもとより新しく入居した方、「以前に家族が住まいしていたので」と言って県外からも訪れしばらく懐かしい写真に眼を凝らしていました。来場者は毎日40～50人位の方が見えたとの報告です。



NHK 汐入からスカイツリー 5月22日「おはよう日本」

5月22日は東京スカイツリーの開業日となり、各報道機関も多くの時間を費やし特集を組んで長時間に渡り報道していました。NHKも「おはよう日本」の中で報道しましたがこの中で「横浜マリンタワー」「東京タワー」「汐入タワー」の3タワーとして取り上げていました。現在、汐入から眺めるスカイツリーは、蛇行する川の流れと白鬚橋との調和、公園の緑と赤色の遊歩道などのバランスが良く、多くの方々が賞賛しており、NHKの報道で更に多くの方に認知されたのではないのでしょうか。



多数が感動！汐入公園 金環日食観測風景

932年ぶり平安時代以来の広域観測で日本中が興奮した、「金環日食」騒動。川柳にも「日食で日本中が一つの輪」とありましたが御多分に漏れず、汐入公園でも朝から大勢の住民が公園に集まりサングラスをかけて、リングになるのを待ち構えて観測していました。7時30分頃には汐入公園全域ではかなりの住民が観測したのではないのでしょうか。現在、区の内外を問わず公園は多くの方に利用されていますが、開発前からこの町を知っている方にとっては、「東京都は本当に良い再開発をしてくれた」と実感している方が多いのではないのでしょうか。
—6月3日は胡録神社の子供祭り—是非、参加して下さい。



都電荒川線情報—バラの花が満開・見頃は—5月下旬位—急いで見に行ってください—見所・三ノ輪橋周辺—荒川遊園から荒川車庫周辺—140種類—13,000本—維持するための費用は—1,000万円位

地域の歴史— 2 2

汐入に実在した魚市場②

大正 12 年 10 月 25 日開業

現在の足立市場の前身である「**汐入魚市場**」が誕生するきっかけとなった直接の理由は、関東大震災により地殻の変動が起き、三陸地方のイカ、サンマ漁の記録的な豊漁と、被害に遭わなかった常磐線の貨物列車で魚が隅田川駅に運ばれてきますが、そこから先へ運ぶトラックなどの輸送手段がない事。



関東大震災により芝浦に開場した仮設市場

又、芝浦・日の出町の仮魚市場は面積が 2,000 坪と狭く、交通も不便なうえに市場も泥だらけで鮮魚を扱うにはかなりの不衛生であった事があげられます。この為、東京市は急遽、現在の築地市場の一部 1 万坪を海軍省から借り受けることになりました。時期も 9 月なので暑く、隅田川駅での魚の山も異臭を放ち始めていました。産地でも魚の処分に困り、出漁を見合わせる漁業者が続出し、水産物の価格も高騰しはじめます。このような状況の中で築地市場のような官製による市場でない、民間人による市場としてここに「**汐入魚市場**」が誕生する機運を迎えます。市場開設に携わったのは岡崎南千住町長【現在の荒川区はまだ誕生しない】隅田川駅日本通運支所長・千住製氷社長・荷主代表等 15 名。候補地は隅田川駅に近い高田三之助氏の所有する汐入の土地で、約 1,500 坪【現在の荒川三中学校の東側の川岸寄り】を借りる事が決定。同時に 12 年 9 月 20 日頃、千住製氷会議室で市場の土地と建物を管理する有限会社「千住鮮魚販売所」の創立総会が開催されます。株は 1 口 500 円・総額 41,000 円で 4,000 人の有志から募りました。

大正 12 年 11 月の朝日新聞も一人助けに生まれた新しい魚市場**汐入村の葦の角に去廿五日から開業**と見出しをつけて報道していますが、本格的な稼働は 11 月に入ってからです。 【次回に続く】